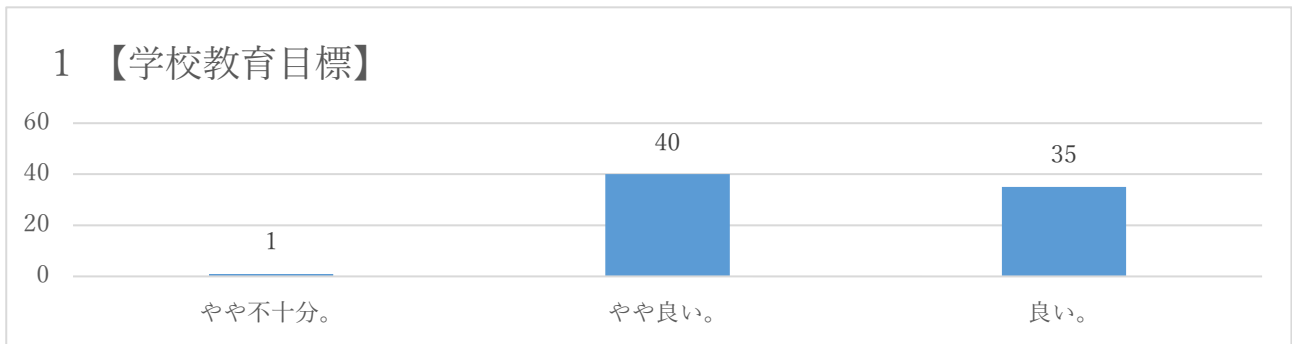
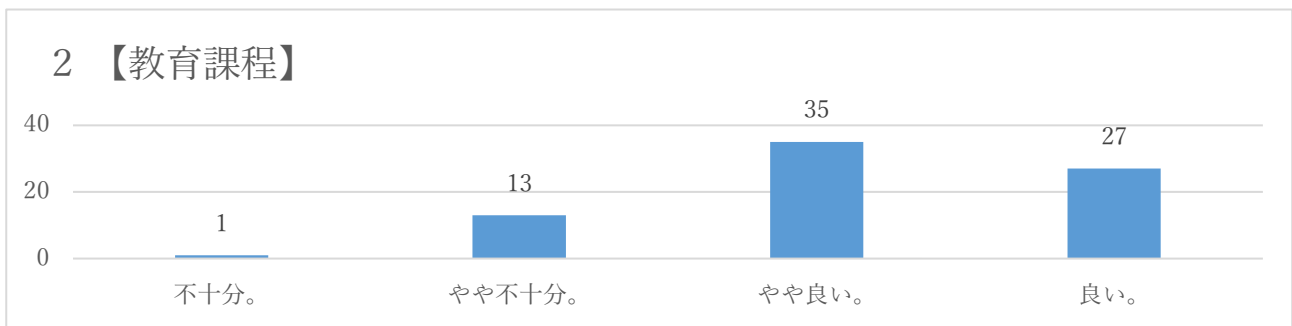


令和4年度学校評価まとめ【教職員】 回答数 76 (Web:74、紙面:2)

【アンケート結果】

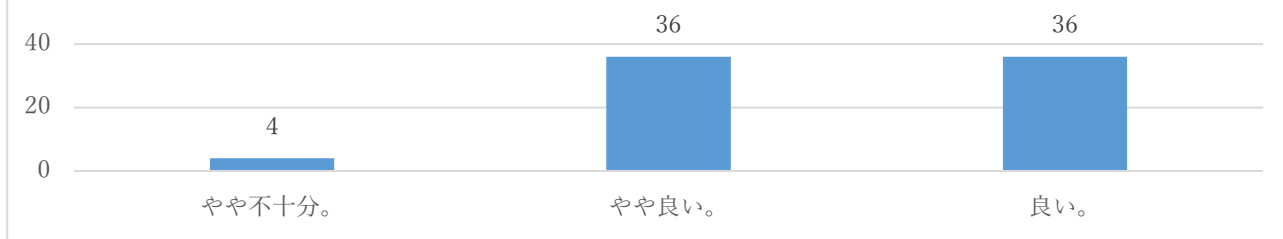


・職員が一体となっているかどうかをどのように評価すればいいのかわからない。



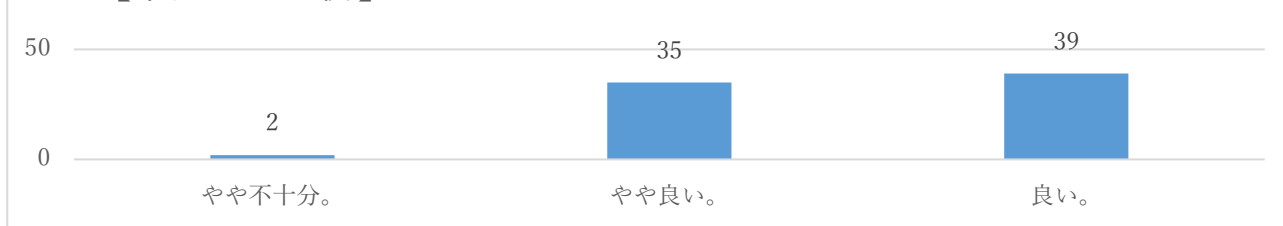
- ・児童生徒の実態が多様化しているため、個々のニーズに十分に対応していないため。
- ・各課程の時数配当や学習形態のあり方については、教育課程係や管理職だけではなく、教師個人がもっと色々に関心を持って改善していけるよう、研修の中に組み込んでも良いのではないのでしょうか。
- ・各教科等の指導を設定し、児童生徒の実態に応じた指導技術を高めていく必要があると思う。
- ・学習指導要領改訂に伴って、種々の改変がトップダウンで行われている。教師の意に反する改変であっても、その説明が教師の方へ十分に行われず、権力によって進められている。これが、児童生徒へ及ぼす影響は大きいと予想される。
- ・年度ごとに検討しているので、疑問に思っていたが、今回の見直しで、一貫性や時数のデコボコの改善が出来ると思います。
- ・I 課程は大学進学コース、就業希望コースのように生徒の実態に合った教育課程編成ができると良い。
- ・教育課程の判断基準が、学部、学年ごとにやや曖昧なような感じがする。
- ・特別活動で「各学校が評価の観点を定める」とあるが、本校はそれが作成されていますか？
- ・課題: 本来、入学時に決まっている教育過程は3年間変わることはない。微調整のみ。
- ・県から示された教育課程変更? についての説明が不十分に感じた。
- ・次年度からの教育課程編成に伴う県からの通知・周知・説明が不十分。結局各学校で解釈が異なることにならないか？
- ・学部間の系統性・連続性について、協議、検討が望まれる。

3 【個別の教育支援計画】



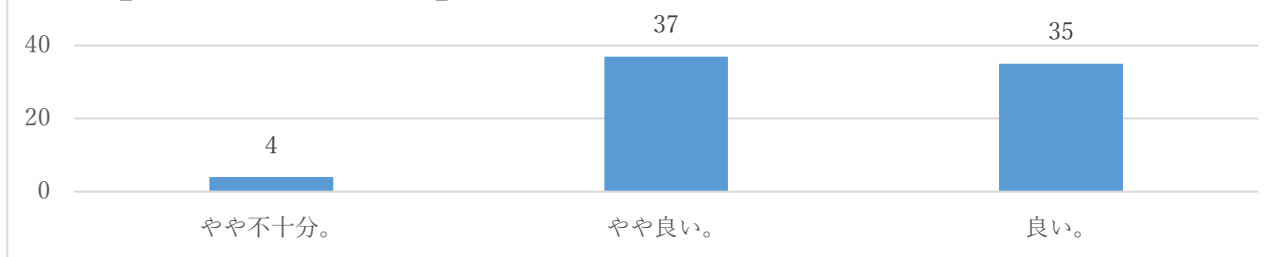
- ・課題:生徒の実態と合っていない部分がある。
- ・障がいの重い子の短期目標が長い間変わらないケースがあるように思われる。細分化し、期間に見合った実現可能な内容を表記できると良い。
- ・形骸化している感がある。支援システムにリンクしない資料が多い。(学校独自等) 全て支援システムにリンクすべき。
- ・ケース会議などで別の資料提供を求められる。→教育支援計画の資料だけで済むように活用する。

4 【家庭との連携】



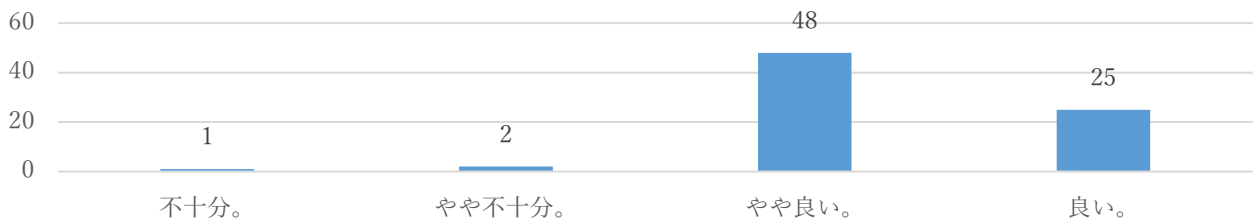
- ・保護者は、理想や日々の日常をこなすことに精一杯で、現実を卒業手前でしか認識できていない。進路からの情報発信を「保護者として今やるべき課題は?」という考え方に結びつけていない。
- ・療育センター入所で、普段、保護者との連絡が取りづらいご家庭には、十分な説明は難しいと感じている。電話やメールを通じて、良好な信頼関係を築くことができるように、これからも努力を続ける。

5 【関係機関との連携】



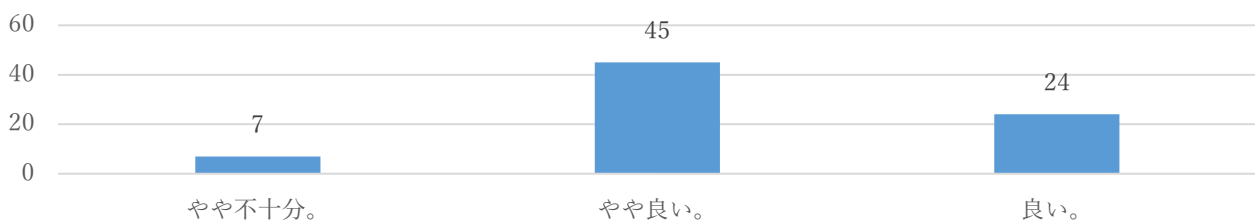
- ・中部療育医療センター生や、通学生のショートステイ利用時、登校後の訓練などについて、あいまいな点が多いので医教連などで確認をして職員必携に明記できると良いと思います。
- ・何が効果的なのかわからないのが現状
- ・具体的にどのような機関と本校が連携しているのかそもそも分からないので周知してもらえると助かります。
- ・デイサービスや療育センターとの共通理解及び共有不足→2学期保護者面談を関係機関との面談に置き換える。

6 【年間指導計画】



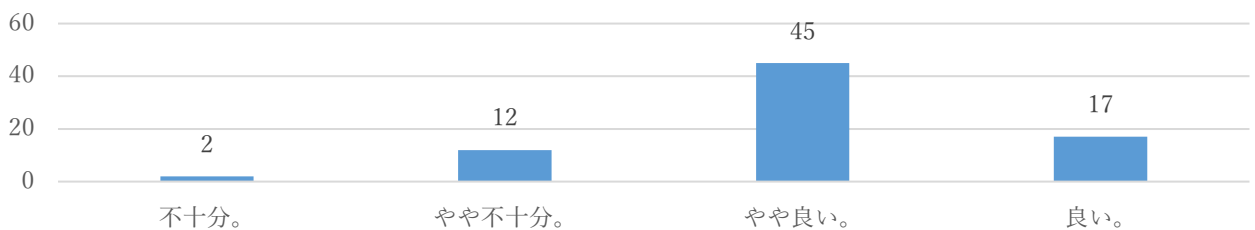
- ・知的代替の教育課程に関して、学習の履歴の引き継ぎがうまくできていない。
- ・年計と学習グループの計画をもう少し繋げることができたらよかったです。

7 【個別の指導計画】



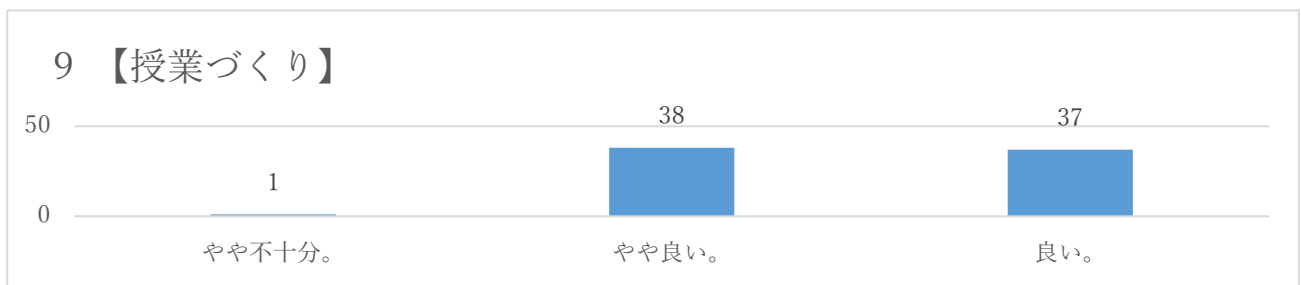
- ・(課題) 資質能力三要素を踏まえた個別の指導計画の作成が今年度から始まり、系統的で発展的な計画として職員も不安を感じている。(改善策) 令和5年度の校内研修の柱として取り組む。
- ・3本柱や観点別評価などに関しては、今後も適切にできるよう検討や見直しが必要。
- ・まだ勉強不足なところがある。
- ・適切にできているのか心配であった。
- ・あまり活用していないため学習しながら活用していきたい。

8 【学習評価】

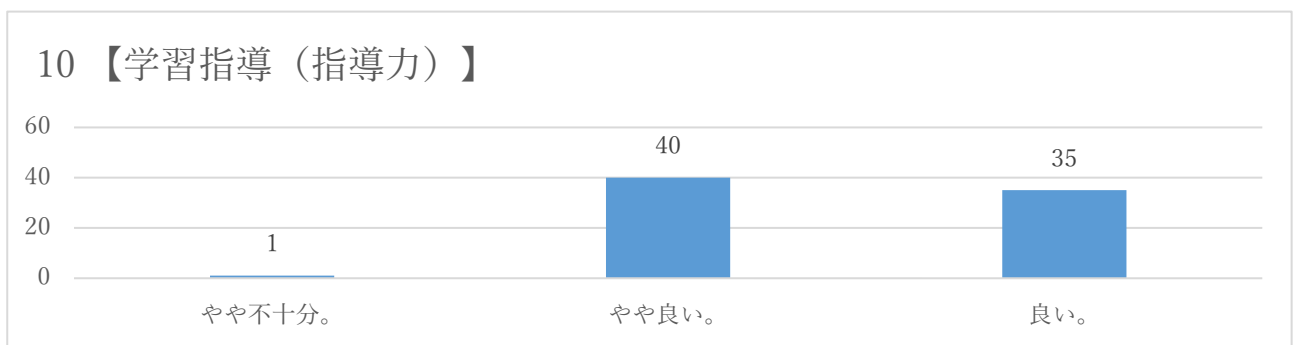


- ・(課題) 個別の指導計画を踏まえた客観的な学習評価及び引き継ぎ資料となっているか、検証が必要である。(改善策) 令和5年度の校内研修の柱として取り組む。
 - ・3観点の視点が各職員で曖昧。
 - ・通知表をだけでは、不十分と感じているが、皆がやりやすい、よい引き継ぎ方法がわからない
 - ・3つの柱による目標設定や3観点による評価の理論的理解が不十分。
- 校内研修や個々の研鑽が必要。
- ・3本柱や観点別評価などに関しては、今後も適切にできるよう検討や見直しが必要。
 - ・これからしっかり引き継いでいきたい。

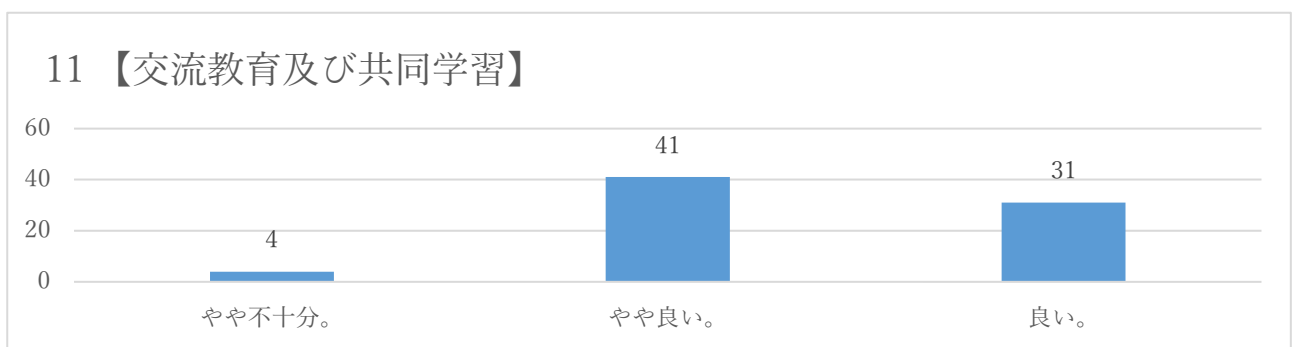
- ・重度重複障害児の評価等に関して、必ず3観点、3つとも作成しなければならないのか？柔軟性があってもよいのでは？
- ・生徒の実態に合っているかどうかの判断が難しい
- ・3観点での評価が重視されたことにより、実態的に評価が難しい児童がいるので、評価がしにくい。教科の指導よりもまず日常生活の指導が主に必要な児童にとって、学校生活を送る中で特に成果がみられている、成長がみられているところの評価が書けないのがもったいないように感じる。
- ・「関係者間(ヨコとタテの繋がり)」が具体的に何を指しているのか分かりません。
- ・1学期3観点での評価を行ったが、教育課程上の全ての教科を3観点で評価するのは難しかった。重度重複障害の児童の評価が、本当にこの方法でよいのか考えさせられる時がある。
- ・現在進行の変換期であるため、共有や引き継ぎまでには至っていない。成果が出るのは次年度以降なのでは。



- ・それぞれの学年の授業計画や教材等もあって、十分な話し合いがもてなかった。

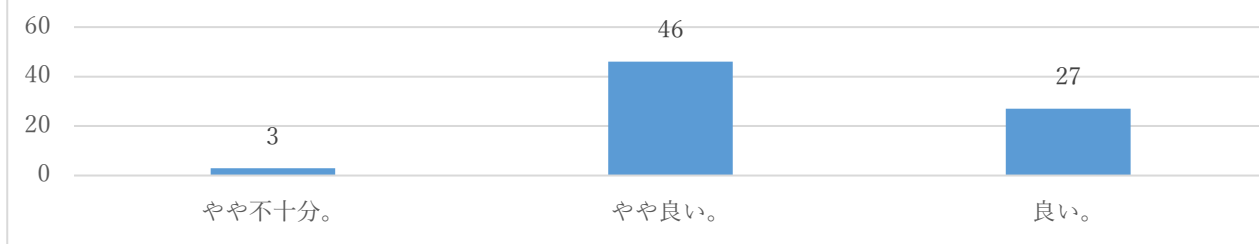


- ・何をもって効果的とするのかわからない



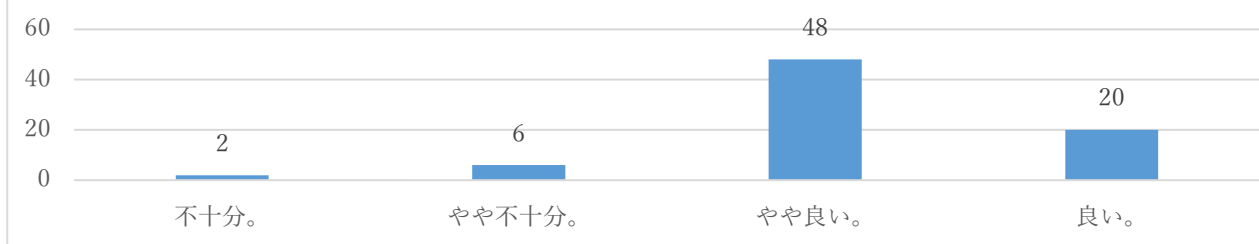
- ・コロナ感染症対策のため、対面での交流等は難しい。
- ・前例踏襲の交流の仕方本当に効果的なのか？検討する時期にきているのではないかと感じる。
- ・積極的ではないと感じる。

12 【キャリア教育】



- ・キャリアパスポートの取組が事務的になっており、負担に感じる
- ・体調不良が多く、感染リスクを避けるため、体験的活動への参加できなかつたり、制限がある。
- ・高等部と連携して、卒後をリアルに捉えた系統的で実践的な指導を行いたい
- ・Ⅱ課程以上の生徒に関しては、「キャリア教育」としての意義があると思うが、重度のⅢ課程や訪問生に関しては「キャリア教育」の意義が感じられない。教育支援計画、個別の指導計画で十分。

13 【人権教育】

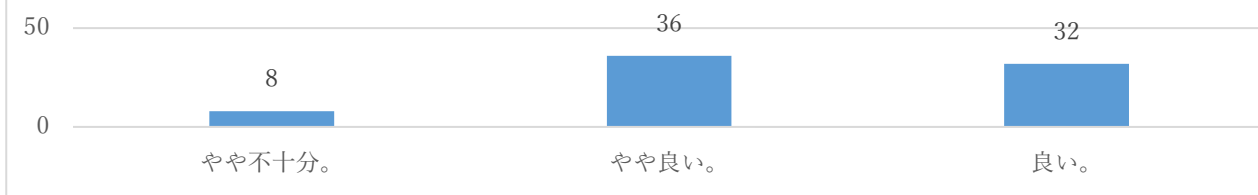


- ・授業の中でももう少し計画的に取り組めると良い。
 - ・学部によって取り組み方がちがうのかな。
 - ・わかりやすい教材の作成
 - ・人権を意識した取り組みを行う行事が設定されていないため、いつ、どのような活動を行えば良いのかわからない。(課題)
 - ・各課程に対して、具体的に何をすればよいのか分からない。
- 生徒の実態に応じた人権教育の見通し(基準?)を示してほしい。
- ・重度重複学級には難しく、職員の研修が、必要だと思われます

14 【就学支援及び教育相談】



15 【校内研修】



・毎年研究紀要を出すレポート作成型の長期的課題ではなく、毎回の研修ごとに課題解決ができるような取り組み(講話や学習会)に変えていっても良いのでは?問題の共有や計画は、個別の指導計画・支援計画は学期ごとの見直し、ケース会等でその都度対処できている。

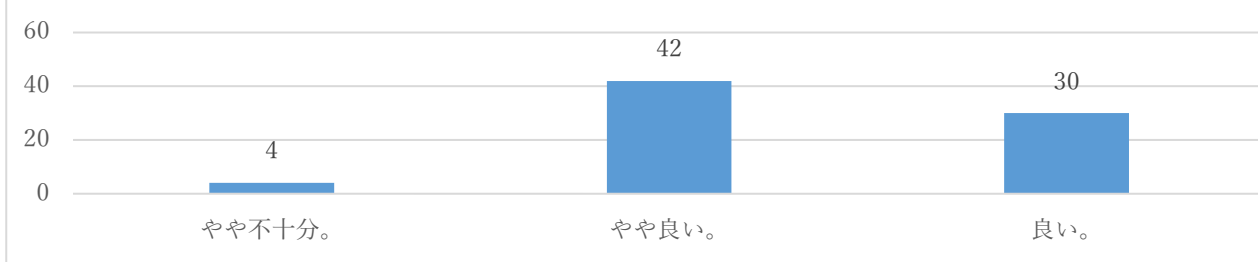
・前年度まで、学習指導要領改訂に伴う教育課程改定関連の研修が、県内の多くの特別支援学校で、校内研修として行われ、その研修内容が落ち着いたところで、今年度から教育課程関連ではない、いつもの形の校内研修がスタートした。しかし、今年度がスタートしたその後に、行政から教育課程の大きな改変を求められ、この取り組みに多くの時間を費やす必要が生じるようになった。しかし、校内研修では、すでに他のテーマで研修が進められ、教育課程の大幅改訂についての研修や話し合いの場を設定することが厳しく、最小限の集まりにとどまることとなった。これにより教育課程の大幅改訂による混乱が収まることなく、引き続き次年度へ移行されることが危惧される。

・昨年度の研修がどこに活かされているのか分からない(実感がない)

・それぞれの職員が自分の担当生徒についての授業実践をまとめるという研修内容になり、問題を共有して課題解決につなげることが難しかった。進路や数学科のように、対象生徒を絞り、グループで問題共有、課題解決をする研修の方が、指導力の向上につながると思う。

・研修内容が非常に、負担に感じる中間発表や冊子作成に意義

16 【自立活動】



・(課題) 実態把握として、基礎感覚や感覚統合等について確認できているか。【情報収集・処理(認知処理過程)・発信(表現)が、自立活動及び教科学習の基礎となる。】

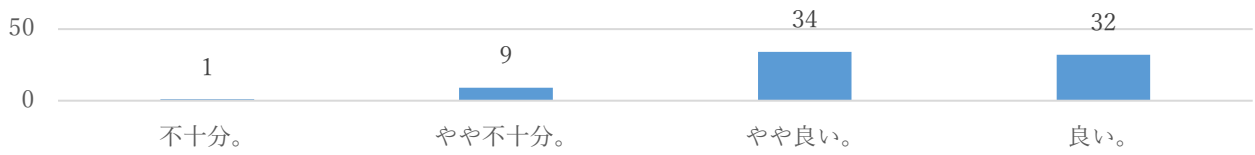
(改善策) 実態把握や感覚統合等に関する校内研修(講師招聘含む)の実施。

・自立活動に関する専門的知識が不十分。教員個々の研鑽が必要。

・自立活動の目標や内容が生徒の実態にあっているか、自活担当や支援部等と確認しながら進めたい。

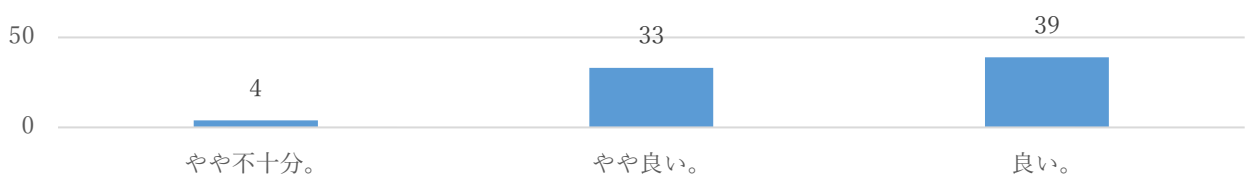
・細かな情報を届けてほしい

17 【校務分掌】



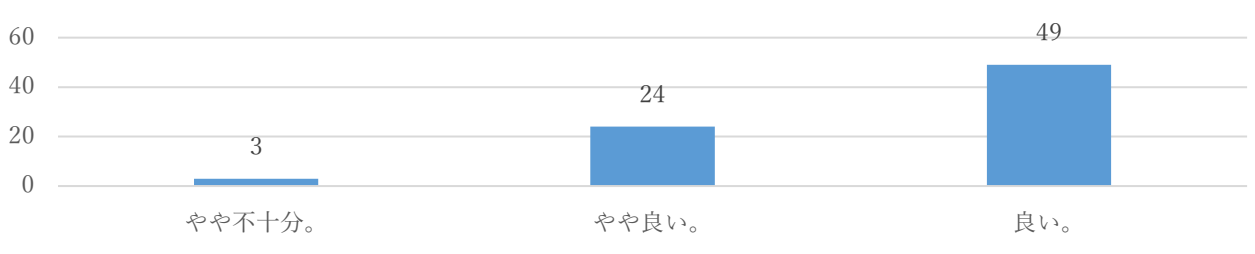
- ・校務分掌、学部分掌の組み合わせによる多忙期の重なりは、機能的効果的な業務遂行とは言いがたい。
- ・負担が均等ではない。
- ・県内特別支援学校においては、新設の特別支援学校が立ち上がったのに伴い、本務職員の割合が大幅に激減することとなった。そのため、前年度から在籍する本務職員が、重たい(仕事量が多い)校務分掌や学部分掌を二つもつこととなり、体調を崩すか否かのぎりぎりのところで、ふんばって仕事をしている状況にある本務職員が何名か見受けられる。
- ・共済に関するものは「職務」に当てはまるのか疑問。通常の職務に支障をきたしている印象
- ・一部の人に業務が集中しているような気がする
- ・適材適所とは考えにくい
- ・分掌に対する職員数を増やしてほしい。また、専門性が高いと考えられる分掌には近しい専科の職員せめて一人配してほしい。

18 【職員会議等】



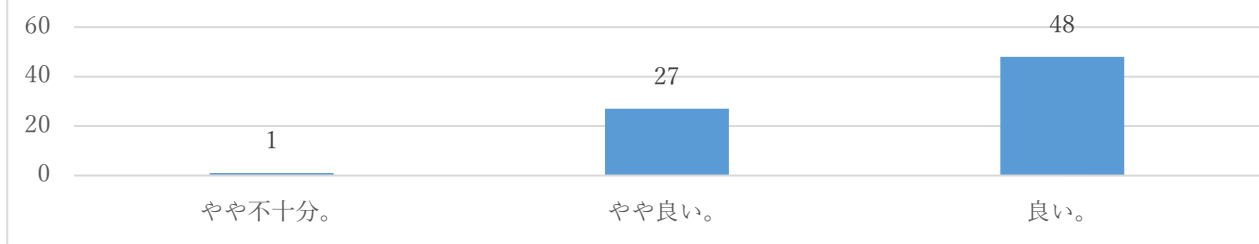
- ・対面のみこだわらず、Teams も活用しながらハイブリッドな運営ができないか？
- ・資料の読み合わせで終わっている場合がある。管理者、教職員は忙しくされているため、情報共有のための読み合わせを目的にするのであれば良いが、合意形成や議論が必要ないのであれば、時間がもったいない。その分教材研究等に使いたい。
- ・伝達場で議論がない。

19 【緊急・救急体制】



- ・良いと回答したいところですが、緊急体制については十分は無いので常に緊張感と臨場感をもって全体で意識できるようにその都度周知していきたい。
- ・避難訓練等における職員の意識の高揚が必要。

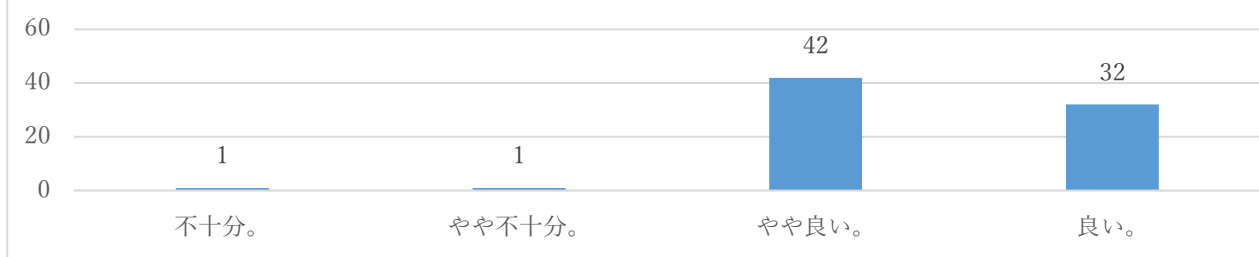
20 【健康・安全・給食】



・地震津波避難訓練の際「職員A・Bが児童Cを上階へ」「職員D・E・Fは児童管理」等と決めているが、あえて何も決めない・避難場所も当日の放送で伝える等の方法をとってみてはどうだろうか？

・「避難完了の表示」を廊下にヒモで付けるのは危険だと感じた（実際の災害で避難する際、目の前にヒモがあったらパニックになると思う）。「教室」に限定する方法を検討してみてはどうか

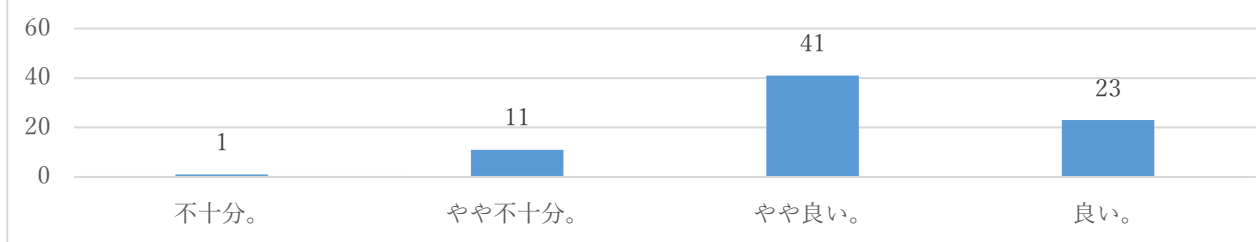
21 【教育環境】



・児童生徒の雨天時の登下校に傘が必要

・校舎の構造上安全性が確保されていない。中学部校舎の改築必要

22 【施設・設備】



・排泄指導や体位変換等で車椅子からフラットな場所等（畳）へ移動する際、車椅子と畳との高低差が大きく職員の負担がかなりある。また、畳み部分は場所が固定されているため、生徒の体を休めながら行う学習場所が限定されてしまっている。高低の可動ができるもの、場所の移動が可能な設備に少しずつ変更できないか？

・教育活動に必要な施設・設備の改善・拡充を要望したり安全で効果的な活用、維持・管理することはできるが、施設・設備の改善・拡充は予算の決定権を持つ行政側の領分であると考える。

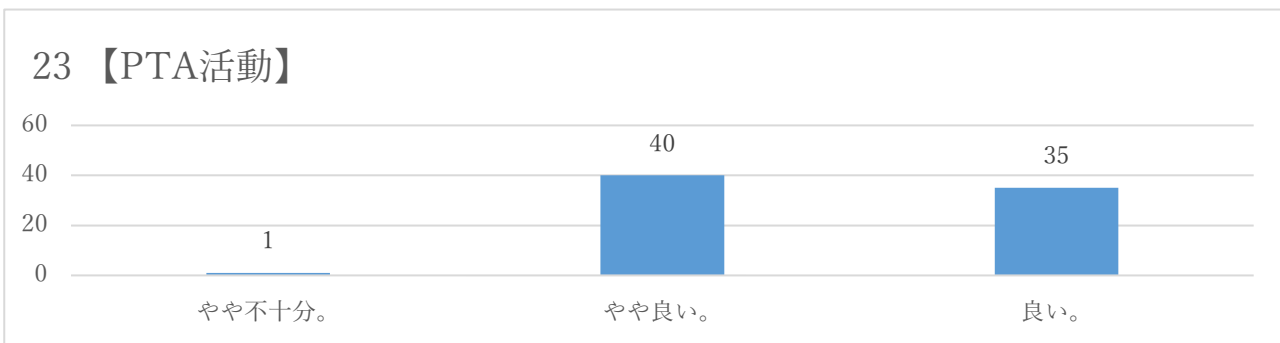
・垂直避難は実際には難しい構造であると思う

・色々と事務部の皆さんに施設・設備の改善に対応してもらっているので感謝。

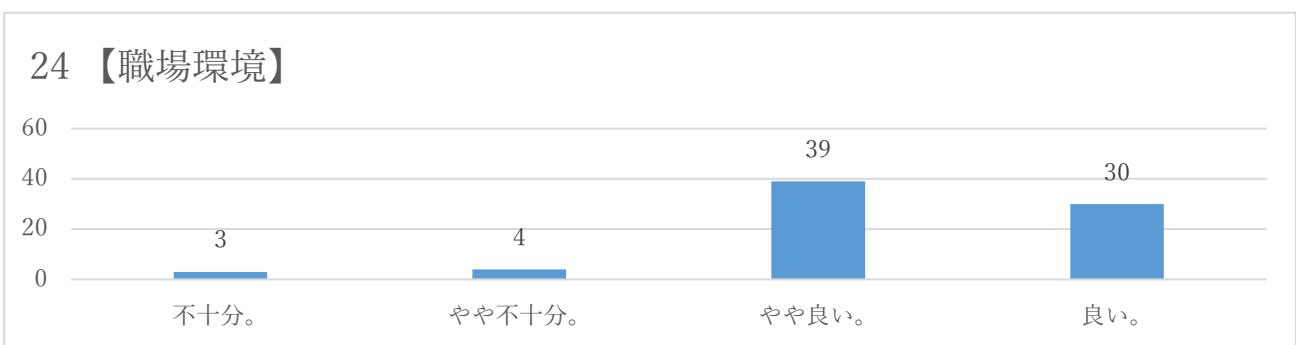
・施設の構造上の問題なので仕方がないが、動線が複雑であったり、段差が多かったり、トイレが古く使い勝手が良くない。工夫して対処している状況。

・肢体不自由校なのにスロープが校内に1ヶ所しかないのは大問題である。

- ・携帯電話の電波が届きにくい場所がある。保健室周辺で携帯電話が使えないのは致命的。
 - ・(児童生徒用・職員用含めて)トイレの改修工事を検討してほしい。
 - ・小学部学部室内にもWi-Fiが届くようにしてほしい。
 - ・教師の取り組みは、十分なされている。
 - ・夏場のクーラーの故障
 - ・災害時の安全な避難場所、経路の確保が難しい校舎の構造となっている。中学部棟にスロープが設置予定であるが、今後も現実的に対応可能な改善案の提示、実現を図る。
 - ・Wi-Fiがもっとつながりやすくしてほしい。廊下に出ないとアンテナが立たない場所がある。できれば、席のどこからでもWi-Fiが繋がるようになってほしい。
- 夏、トイレの中が暑くなり、排泄指導中は、児童が汗だらけになる。
- 月曜日に、水道水の塩素濃度が低くなる。
- ・おねがいすると、すぐに環境整備を行って頂きありがとうございます。
- しかし、設備の面で、各階によっては、便器の数が不足しているために、他の階に行き用を足すこともしばしばあり、不便なことが多いです。
- ・クーラー稼働→安定したクーラー稼働ができるよう故障の対応や十分な予算確保をする。

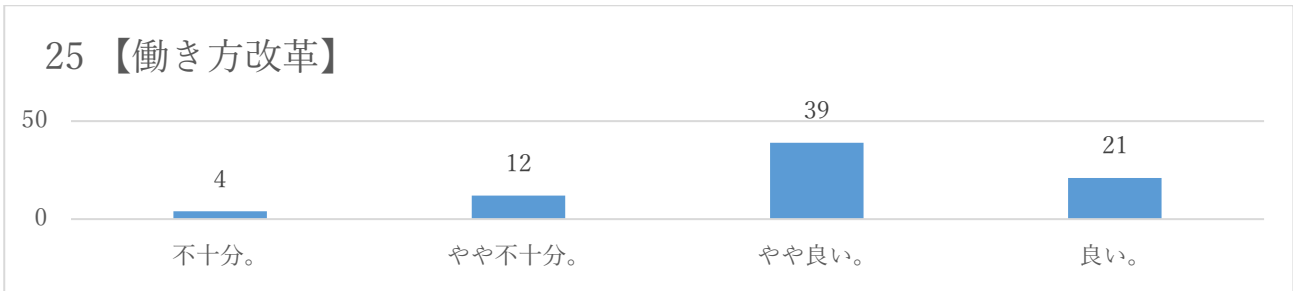


- ・PTA 予算のあり方は課題があるのではないか。
- ・ふと思った疑問なのですが、準ずる教育課程の生徒が授業を削ってまでスマイルフェアに参加すべきなのでしょうか？



- ・時間的余裕がない。(2)
- ・誰もが悩みを気軽に相談できるまでの環境には至っていない。
- ・職場での人間関係に悩み、退職したり、病休を取るケースがある。気軽に相談できる窓口があったらいい。また、これは、予算を伴って難しいことだと思うが、一日人間ドックのようにカウンセリングをシステム化して、職員が、普通に当然のこのようにカウンセリングを受けることができ、少しでもこのような事態を予防することができるようになったら良いのになと感じる。

・更衣室がありません。休憩するところもありません。



・あまり進んでいない。

・業務の効率化や負担軽減は現場の職員だけで行えるものではない。効率化や負担軽減が成されないことを現場の責任に転嫁することは避けるべき。行政側での思い切った改革が必要。

教育のIT化を推し進めるのと同等の業務のIT化の推進や、個別の支援計画・個別の指導計画等々の個別の計画の統による事務処理量等の効率化や業務量の削減が必要。

・効率化以前に限られた時間に業務の重なりや偏りがあり、休憩時間に話し合いを仕方なく入れるケースが多い（申し訳ないが）。勤務時間内に終わらせることはほぼ不可能なので皆、仕方なく休憩時間を活用している。休憩時間に純粋に休憩している職員をあまり見たことがない。

・新しく特別支援学校が立ち上がったのに伴って、県内特別支援学校の本務職員の割合が減っている。その分、前年度から在籍する本務職員の仕事量がとても増えている。改善策としては、新規採用者を増やして、非正規の教師の割合を、全国平均レベルまで引き上げて欲しい。

・学年会や分掌部会等、まだ「時間外でも当たり前」という意識を感じる。「時間内に終わる」という意識はあまり感じられない。「残業は美德」ではない。

・児童生徒の学習に関する仕事以外の事務的な仕事が多い。簡略化したほうがいい。

・業務が多くなり、負担軽減になっていない。

・校内外のアンケートや児童生徒に関わる提出書類等で（学期末、年度末は忙しい）、教材研究の時間が取りづらい。

・もっと仕事の効率化を図った方がよい。

・次々新しいことが納得する説明なく降りてくる。何が課題で何を解決すべきが曖昧で、とにかくやりなさいが多い。

・「工夫して」というばかり。抜本的に改革をするなら県・管理者から「これはやらないで良い」というスクラップする内容を提示する必要がある。

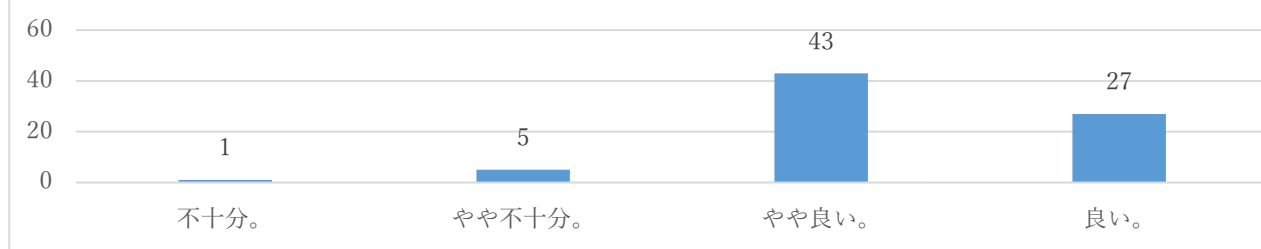
・負担軽減には時には管理者のトップダウンが必要。ハラスメント的なことを気にしているのか。職員に判断、議論させることが負担になり仕事が複雑化する要因になる場合もある

・年々、業務が細かくなってきているように感じる。その分、パソコンに向かう時間が長くなり、職員同士で対話する時間がなかなか持てずにいる。

・全体清掃や会議が業務時間外にまで及ぶことが多々ある。定時退勤日など設けているが、意識できていないように感じる。

・働き方改革と言っている時点で論外。→年度初めの業務を整理するなどの働かせ方改革を進めるべき。

26 【人権意識】



- ・良いと思うが、保護者から見ると不十分かもしれない、誰が見ても十分な対応になるようみんなで意識していきたい。
- ・初任件の方は研究授業や指導案作成等で心身共に非常に疲れていると思う。主事招聘・公開授業前、全体職朝での「意気込み(パフォーマンス)」は、余計な負担ではないか、と感じた。自主的なものなら良いが、「今までがこうだから」というものの中にも、見直す必要がないか検討しても良いと思う
- ・適切な言動は、相互の人間関係によってもあり方が変わるため、第三者の評価が難しい。明らかに不適切な場合や、支障が生じた場合、またはその恐れが予想される場合の事案について、可能な限り組織で共有し、自身の振る舞いを振り返る職場環境づくりに努める。
- ・本当に一部の、少数の職員の生徒への暴言・雑な対応が気になることがある。

【自由記述】

- ・みんなそれぞれの部署でとてもよくがんばっていると思います。お疲れ様です。
- ・60歳以上の教職員が、今後増えてくることは想定されている。これに伴い、新規採用者の数が、現状に比べて減少していくことが想定されている。この想定にも関わらず、早期退職(勸奨退職)の枠が、希望者数に比べてとても少ないことが気になっている。勸奨退職希望者が多数いるので、勸奨退職の枠をもっと広げて、多くの退職者が生じて、その分、多くの若者が採用される仕組みにして欲しい。
- ・生徒も職員もあいさつが飛び交い、明るい学校だと感じます。今年度はプールも再開し、少しずつ活気が戻ってきて良かったです。苗作りの様子も教室外(外の廊下)で他学部も成長の様子を見ることができた良い取り組みだと思いました。掲示物など工夫が凝らされていて生徒職員とも楽しく学校生活が送れているように感じます。
- ・今回の学校評価アンケートでは、Foams と紙資料が配付されていた。Foams のみにすべき。情報機器に苦手意識を持っている職員もいるが、その方々の苦手意識をそのままにすべきでないと思います。
- ・コロナのような想定外のことが起こっても、学習の保証という名のもとで授業時数の確保(数合わせ)が最優先であることに疑問を感じる。内容についての議論がない。
- ・職員の教材を保管できる場所が少ない。教室に活用できる棚が少なかったり、無かったり、前任者が私物の棚を寄付してくれたり、自分でも棚や本立てを準備し、そのまま引き続き、次の担任が教室で使っている。
- ・チームス、掲示板を一つにまとめてもらえたら、あちらも、こちらもみないといけないと、ならないのでは？少々負担です。

【結果の分析】

教職員アンケートからは、多くの課題や改善点が示され、今後の本校の学校運営への多くの示唆が得られた。特に、問2教育課程、問7個別の指導計画、問8学習評価では、学習指導要領改訂に伴う教育課程の編成や

育成すべき資質能力の3本柱、3観点評価に関する本校の大きな課題が示されている。特に、重度障害や重複障害のある児童生徒の指導と評価の一体化についての研究やまとめが必要であり、校内研修での対応を検討する。

また、問25働き方改革では、業務の効率化や負担軽減の必要性について多くの声が寄せられている。本校の抱える課題を把握し、学校全体による取組に繋げることが求められる。衛生委員会内で負担軽減委員会の内容を取り扱い、業務内容の整理や効率化についての検討を進める。

問13人権教育では、児童生徒や保護者と同様に教職員も教育活動への取組が見通せていない状況が分かる。道徳を中心とした教育活動全体で人権教育に取り組むことから推進したい。

問15校内研修では、研修方法や研修内容についての課題が指摘されている。今年度挙げられた諸課題について優先度を吟味し、その解決に資する内容について学校全体で取り組みたい。

問16問自立活動では、引き続き自立活動部を中心に、教職員一人一人の自立活動の専門性の向上や相談、支援体制の充実を図る。

問17校務分掌では、職員一人一人の専門性が多様であることを念頭に、校務分掌や学部分掌の内容や時期的な業務量を考慮しながら、バランス良く配置することが求められている。全体的な業務量の軽減に努めるとともに、負担過重として課題に挙げられた分掌に焦点を当て、具体的な状況の把握及び共有のもと具体的な対策を講じていきたい。

問22施設・設備では、校舎の老朽化に伴う課題が多いが、事務・現業が中心にその改善に日々対応していただいている。今年度、空調機器の整備を進めているので、Wi-Fi 環境や安全設備等の諸課題については優先順位をつけながら、予算内で段階的に対処する。

問26人権意識では、児童生徒に対する障害者の権利や合理的配慮に関する事項、いじめや体罰対策など幅広く研鑽を深める必要がある。